

11月15日（木）開催プレスプレビューのご案内

昨年創立百周年を迎えた「東京古典会」が主催 国内最大古典籍オークション

古典籍展観大入札会

オークションに先駆け 11月16日（金）・17日（土）東京神田神保町で一般公開

「東京古典会」は国内最大の古典籍オークションである平成24年度【古典籍展観大入札会】を11月16日（金）17日（土）の二日間、東京古書会館（千代田区神田小川町3-22）で開催致します。

通常は組合加盟業者しか参加できない古書市場ですが、お客様が実際に品物をご覧いただいた上で業者に注文できる、年に一度の機会が【古典籍展観大入札会】であり、出品規定を1点10万円以上（額・幅・富物は30万円以上、屏風は100万円以上）と設けているため、古典籍の中でも特に貴重な優品が集まります。今年も江戸時代以前を中心とした写本・版本、地図、錦絵、古文書などの和漢古典籍が1,952点並び、博物館などではケース越しで眺めることしかできない貴重な書物も多数あります。このオークションでは全ての出品物が一般ご来場者の皆様にも、実際に手にとって間近で見ていただくことができ、欲しい書物がある場合には入札（古書店がお客様の指値で入札）もしていただける、またと無い貴重な機会です。

公開に先立ち、11月15日（木）15:00より、報道関係者の皆様を対象とするプレスプレビューの機会をご用意いたします。ご多忙とは存じますが、ご取材をご検討くだされば幸いです。ご取材いただける場合は、お手数ですが別紙 FAX 返信用紙にて事前にご連絡ください。何卒ご高配賜りますようお願い申し上げます。

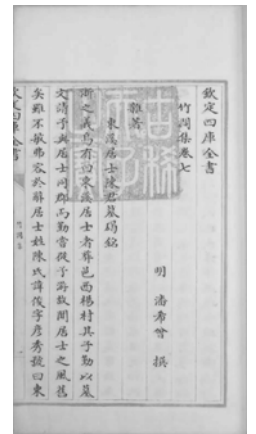
【平成24年度 東京古典会 古典籍展観大入札会】注目出品物

- 唐大詔令集 宋敏求輯 明鈔本 丁氏八千卷楼旧蔵 八冊
- 欽定四庫全書零本 紀昀等奉敕輯 乾隆中 鈔本 五冊

今年度の東京古典会入札会に出品されたもので、中国の古典籍として特に注目に値する2点についてその価値を説明してみよう。およそ19世紀より以前に成立した古典籍の価値は成立状況と流伝という二つの側面を有する。中国では印刷術が宋時代（10世紀以後）に発展、刊本（印刷本）の時代となり、写本は廃れる。従って、手書きの写本は、蔵書家が稀覯書を自ら写し取る伝鈔本と宮廷に於ける宮廷写本におおまかに分類され、写本は印刷本に比べ、伝わる絶対量が少ないため、貴重視されることとなる。日本に於いて、江戸時代以降（17世紀以降）刊本の時代がやってくるが、依前として写本も多く流布するのは全く違う状況である。今回出品の『唐大詔令集』と『四庫全書（竹澗集）』は、その伝鈔本と宮廷写本を代表するものである。前者は明・清時代（16・17世紀）頃の写本と目され、後者は清乾隆時代（18世紀）の写本である。『唐大詔令集』は唐時代の詔を集めたもので、刊本がなく、伝鈔本が頼りとなる。『四庫全書（竹澗集）』は清乾隆帝が1万2千余点の書物を3万数千冊の写本に校定書写せしめ、それを7セット作製した世界最大の叢書で、3千8百余人が書写に関わったと言われる。宮廷写本として、明時代の『永樂大典』とともに、中国書物文化の珠玉である。更に、流伝から見ると、『唐大詔令集』は清末の四大蔵書家・杭州の丁氏八千卷楼の旧蔵で、丁氏本は今、南京図書館に收藏されている。『四庫全書（竹澗集）』は7セットの内、杭州にあった文瀾閣本と言われるものであろう。因みに、3セットは焼失、1セットは台北故宮博物院に、他に、北京・蘭州に保管され、文瀾閣本は杭州浙江図書館に收藏される。この2書ともに、太平天国の乱が20世紀中葉、大陸全土を荒らし回った時に杭州から流出したものと考えられる。中国写本を代表する価値を持ち、ともに同じ運命を辿ってきた2書は、はたして故郷に帰るのか、歴史と運命を物語る逸品である。



唐大詔令集



欽定四庫全書

【慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授 高橋智氏】

■ その他の注目出品物

東大寺切	保安元年 伝源俊頼筆 一幅
続後撰和歌集 卷第十二	鎌倉中後期写 伝津守国夏筆 長尾切 色替唐紙料紙 一卷
竹取物語	奈良絵巻 土佐光起画 長巻 三巻
新編名方類証 医書大全	熊宗立編 大永八年刊 阿佐井野宗瑞版 五山版 十冊
平天儀関係三種	平天儀・平天儀図解・平天儀俗解 三冊
周易兼義	元刊明前期 正徳遞修 六冊
乾隆得勝図	郎世寧画 乾隆期刊 大型銅版十五図 一帖
歴代首相元勳 尺牘偉観	山県有朋・三条実美・岩倉具視・大久保利通・西園寺公望他十九通 六巻
正岡子規俳句分類稿	星の句 紙数三十八丁 原装 釈文一冊付 二冊
武州横浜開港見分之図	真虎画 安政六年(1859)三月写 絹本彩色 一幅
婦人相学拾牋	歌麿画 鶴屋板 一枚
ロシアブーチャーチン 提督異風写真鑑	長崎絵 磯野文斎春信画 大和屋板 附表題 八枚揃

★ 上記以外にも古写本・古版本を始め、江戸時代の写本・版本、中国朝鮮本、錦絵、古地図、古文書、書画幅、など全1,952点の貴重書を展覧。出品物は全て東京古典会サイト(<http://www.koten-kai.jp>)に掲載しております。

■ プレスレビュー開催概要

日 時：2012年11月15日(木) 15:00～17:00 会 場：東京古書会館

■ イベント開催概要

名 称：平成24年度 東京古典会 古典籍展覧大入札会

日 時：11月16日(金) 10:00～18:00 / 11月17日(土) 10:00～16:30

※一般非公開で、古書業者のみ参加可能な入札会(オークション)は18日(日)・19日(月)に実施します。

会 場：東京古書会館(東京都千代田区神田小川町3-22 TEL:03-3293-0161)

入 場 料：無 料 主 催：東京古典会

■ 【古典籍展覧大入札会】入札システム

11月16日(金)17日(土)に開催される一般展覧で、お客様に出品物を直接ご覧頂きます。購入を希望する書籍がある場合には、会場で古書業者に入札を依頼(1点10万円以上、但し額・幅・嵩物は30万以上、屏風は100万以上)できます。その後18・19日に行われる入札会(※一般の方は入場できません)で、依頼を受けた古書業者がお客様の希望価格で代理入札し、最高値をつけた方が落札できるというシステムです。初めて参加される方も、会場に控える古書の専門家が入札価格などの相談に応じますので、安心して入札できます。

■ 「東京古典会」とは

「東京古典会」とは、東京古書組合(約700古書店加盟)のなかで、主に古典籍を扱う専門古書業者の集まりで現在27店舗が加盟しており、昨年創立百周年を迎えました。毎週火曜日には和本・古典籍を中心とした同業者間の市場を運営しており、そこには毎回全国から日本や中国の古典籍が何百点も集まり取引されています。

▼この件に関するお問い合わせ先(出品書籍画像の提供も承ります)▼

東京古書組合内 東京古典会 Tel:03-3293-0161 kotenkai@kosho.ne.jp

東京古典会 広報担当

玉英堂書店 斉藤良太 info@gyokueido.com Tel:03-3294-8045 Fax:03-3219-5313

誠心堂書店 橋口兼介 post@book-seishindo.com Tel:03-3262-5947 Fax:03-3238-9455

返信用 F A X 番号 : 03-3291-5353

プレスレビュー申込書

昨年創立百周年を迎えた「東京古典会」が主催 国内最大古典籍オークション

【古典籍展観大入札会】プレスレビュー

日時 : 2012年11月15日(木) 15:00~17:00
会場 : 東京古書会館(東京都千代田区神田小川町3-22)
TEL:03-3293-0161 FAX:03-3291-5353

展観される全出品物 1,952 点をご自由にご覧いただけます。

<会場へのアクセス>

JR御茶ノ水駅・東京メトロ新御茶ノ水駅・東京メトロ神保町駅 各駅より徒歩5分
※会場には駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



ご出席 ・ ご欠席

貴媒体名			
貴社名			
部署名			
ご芳名			
TEL		FAX	
E-mail			
通信欄			

返信用 F A X 番号 : 03-3291-5353